



# 西消防団だより

平成27年冬号（通算第7号）

発行／編集：横浜市西消防団広報委員会 〒220-0041 横浜市西区戸部本町50-11 西消防署庶務課内（TEL045-313-0119）

「その時」に備える  
震災対策各種訓練



ダミー人形は心肺停止想定

第一分団は倒壊建物からの救助救出訓練を震災対策訓練場にて行いました。情報受伝達や救護所設営も含めた災害現場活動の総合的な内容となりました。



8月、それぞれの分団の管轄地域を踏まえた内容の震災対策訓練を、横浜市消防局消防訓練センター（戸塚区）において実施しました。



巨大ターミナル駅や商業施設、住宅密集地などを有する横浜市西区。その地を守る西消防団は、都市型の様々な災害に対応する訓練を行っています。



（※次ページに続く）

入り組んだ狭い道路の木造住宅密集地域が多数ある西区では、火災が起きた際に延焼拡大を防止するかが重要なため、消防団もその技術や知識をしっかりと身につけていきます。



第二分団・第三分団は、同センター内の消火訓練場にて、震災対策木造住宅密集地域消火訓練を行いました。





今回も、潜水士やダイビングの有資格者が指導する希望者へのアクアラングを使用したスクーバダイビング体験を訓練の合間に行いました。

## 都市型災害に対応せよ！ 車両からの救助救出訓練

2月には、西消防署構内において、本物の乗用車を2台使用した、事故車両からの救助救出訓練を実施しました。この訓練は大型幹線道路が走る西区の立地を鑑み、大型地震など同時に多発災害時に消防団でも対応が出来ないかという団員の声から生まれたもので、今回で4回目となりました。



(※次ページに続く)



西消防団ではこのような訓練も全て、男女の別なく実施しています。災害はいつ起こるか分からず、男性団員が必ず出場できるとは限らないからです。



団員の皆さんには、今年度も後半に入り、年末年始消防特別警備、そして年明けからは大小の各種訓練が控えています。体調には十分に注意して、これからも西区の安全、安心を守るために消防団活動を宜しくお願い致します。



(※前ページより続き)



40ミリホースとガンタイプノズルを使用しての放水は反動も少ないため、女性団員も率先や補助、伝令の経験を積み、総合的な消火力向上を図ります。

実災害を意識し無線を活用



初めて放水をする女性団員は緊張した表情

また、この日の午後からは、今年で5回目となる同センターのプールを使用する水難救助対応訓練でした。※プールに使用している塩素により活動服が変色・損傷するのを防止するため、旧活動服を着用しています。

## 津波や風水害にも備える 水難救助対応訓練



そして、救命ボートを使用しての救助訓練では、まず正しい漕艇技術を確認してから、対岸の要救助者の救出に向かうなどいくつかの想定での訓練をおこないました。



団長 矢部孝一

西区の皆様には、日頃から消防団活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。皆様のご指導とご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

市内20消防団で唯一、団員の条例定数充足率100%を4年間維持している西消防団を率いることとなり、大変身の引き締まる思いと重責を感じております。皆様のご指導とご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

本年4月1日より、西消防団長を拝命いたしました。

平成25年末には、住民の積極的な参加のもとに住民の安全の確保に資することを目的とする「消防団を中心とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、これを受けて救助や消火活動に必要な資機材などを今まで以上に配置整備していくだけ、訓練や災害活動に一層気持ちは入っています。

この競技は、消防活動の根幹をなす要素をすべて含んでおり、正確な資機材の取扱い及び操作による放水の準備から消火までのタイムなどを競うものです。

出場選手に限らず、団員は皆優勝を目指し、夜間や時には休日も返上してその訓練を頑張りました。

そして競技終了後は順位よりも大切な「何か」を感じ取っていたようです。これからは毎年この訓練会を開催し、地域の皆さんに見学していただけるよう広報活動をしていきたいと考えています。

大規模災害に対応する訓練を優先し、昨年は断念した「西消防団消防操法技術訓練会」を今年は開催することができました。

この競技は、消防活動の根幹をなす要素をすべて含んでおり、正確な資機材の取扱い及び操作による放水の準備から消火までのタイムなどを競うものです。

出場選手に限らず、団員は皆優勝を目指し、夜間や時には休日も返上してその訓練を頑張りました。

そして競技終了後は順位よりも大切な「何か」を感じ取っていたようです。これからは毎年この訓練会を開催し、地域の皆さんに見学していただけるよう広報活動をしていきたいと考えています。





要救助者を演じているのは潜水士の資格をもつ大竹訓練担当部長



普段は穏やかだが、安全管理に関しては特に厳しい矢部団長

## 実河川も使用しての 風水害対策水難救助訓練

関東も梅雨を迎えた6月、来たるべき台風シーズンや予測不能なゲリラ豪雨に備え、西消防署および大岡川での水難救助訓練を実施しました。



その後、広い低地と河川、地下街のある西区ではとても重要な、水防工法についても学びました。



土嚢積みの基礎知識や技術をはじめ、市街地で特に必要とされる、はしごとブルーシートで止水板を作り、ドアなどからの浸水を防ぐ水防工法についても指導をうけました。



今回は、袋に土砂を詰めて口を閉じ、土嚢を作成する時点からの訓練でした。女性団員も率先して参加しています。



**第三分団 分団長  
小長谷 修司**

われわれ第三分団は受け持ち区域が広く、第五地区・第六地区・みなとみらい21地区（一部）などの横浜駅西口を含む繁華街、河川や海に囲まれ海拔の低い岡野・平沼・急傾斜地の軽井沢・浅間台など、極めて変化に富んでいるため、「地域に根ざした消防団活動」をモットーに、イベントにも積極的に参加するなどして、安心・安全の街づくりを常に心がけています。

平成27年度は消防操法大会があり、9月までは小型ポンプ操法の訓練に力を注いだため、その他の本格的な訓練がなかなかできませんでしたが、年度の後半からは基礎訓練を通じ、女性消防団員・新入団員に対して、資機材の取り扱い・ポンプを使った消火活動が行えるよう力を入れて参りました。

西消防団全体では団員の定数を満たしていますが、定年制ということもあり、この街を守るために団員が足りておりません。地域で私たちとともに活躍してくれる消防団員を随時募集しておりますので、是非よろしくお願いします。

(※前ページより続き)



火点想定の擁壁保護のため噴霧放水



横浜市内で震度6を観測する地震が発生し、保土ヶ谷区の木造住宅密集地域で複数の建物倒壊と建物火災が同時に起きたという想定で、建物内に要救助者が多数いるため、先に活動をしていました。保土ヶ谷消防団からの増強要請を受け、西消防団が消火と救助の各活動に出場するというものです。



倒壊建物エリアには保土ヶ谷消防団が先着

消防隊に続き、西消防団の救助隊も活動を開始。災害現場の状況を把握しながら人命検索をおこない、小隊長の指示のもと、救助資機材などを用意して使用していきます。



建物内に複数の要救助者を発見。がれきを排除して開口部を作り、要救助者の傷病程度を観察・判断しながら、各隊が連携して救助活動にあたります。



救出し、イモビライザーで固定するなどして救護所まで次々と搬送します。

そのため、日頃から地元地域の状況を把握し、消火栓の位置を確認し、全員ホースの延長、接続要領、筒

正確で迅速な情報受伝達についての習熟も目的の一つでしたが、確実に前回の訓練よりもその技術は向上していると実感できました。



分団本部と団本部の間もデジタル無線で交信

この訓練によって、明るく自信に満ちた団員相互間の育成も出来て、法技術訓練会では、二分団が優勝するとともに、新入団員が戦力として活動に参加でき、消防力の強化につながったと感じています。

また、平成27年は、西区消防操法技術訓練会では、二分団が優勝するといつも、西区消防操法技術訓練会も開催され、新入団員にとつて消火活動を習得するのにとても良い年になりました。

この訓練によって、明るく自信に満ちた団員相互間の育成も出来て、法技術訓練会では、二分団が優勝するといつも、西区消防操法技術訓練会も開催され、新入団員にとつて消火活動を習得するのにとても良い年になりました。

この訓練によって、明るく自信に満ちた団員相互間の育成も出来て、法技術訓練会では、二分団が優勝するといつも、西区消防操法技術訓練会も開催され、新入団員にとつて消火活動を習得するのにとても良い年になりました。



今年は我々第一分団が西消防団代表として、2年に一度の横浜市消防操法技術訓練会への出場が決まっていた為、定例の訓練日の中、春先から週2回の夜間訓練を入れ、10月の本大会に向けて昼夜操法訓練に励んでいました。西消防署職員また西消防団からは団本部はもちろん、第二分団及び第三分団の協力も得て、無事大会へ選手を送りだす事ができました。



訓練指導者  
小島 一之

## 第一分団



西消防団では全分団が参加する大型訓練だけでなく、各分団の管轄する地域の特性を考慮した分団別訓練や新人教育にも力を注いでいます。

各分団訓練担当からのコメントも添えて、そのような分団ごとの活動を一部ですがご紹介します。



消防操法の動作には全て意味があり実災害の対応時にも役立っている



あいにくの雨だったが選手は気合充分



市民の方には、小型ポンプ操法といふのは、なかなか馴染みがないと思いますが、我々消防団員にとっては消防の基本となるもので、礼式はもとより、規律ある動作及び的確な命令行為の伝達、ホースの延長・結合・搬送要領、尚且つポンプの基本的な操作の習得、火点への正確な放水など、出場選手ばかりではなく、サポートする団員にとっても消防の基本が学べる重要な訓練のひとつだと思います。



本年4月、掃部山公園内に第一分団第一班の器具置場が完成



## 第二分団



本年度より西消防団第二分団の訓練指導者を担当させて頂く事となりました。

第二分団では日々より消火及び救助出など多岐にわたる訓練を実施していますが、その多くは消防施設内や公園などでおこなわれる事が多く、今後起こりうるであろう大規模災害時には

(※次ページに続く)

すべては地域のために

西消防署長 中嶋俊明



平成27年4月1日付で西消防署長に着任いたしました中嶋でございます。西消防団の皆様には、日頃から地域防災力の向上にご尽力いただき感謝申し上げますとともに、本当に心強く思っております。

さて、東日本大震災が発生してから4年9か月余が過ぎましたが、被害が甚大であったがゆえに復旧・復興がなかなか進みません。そのような中においても南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、この地震が起ると東日本から西日本の広範囲にかけて被害

だけは入っていない。入るはずがない」などと、都合よく考えてしまいがちですが、「地震が起きたとき何処にいたか」によって自身の命運が左右されてしまふことは否めません。

大地震等の危機は私たちの都合とは関係なく、いや恵なしに必ずやってきます。そして、大きな被害が発生することは避けられませんし、高齢の方や身体の不自由な方の援護を最優先に考えていかなくてはなりません。

そういう意味におきましても、消防団の皆様に寄せられる期待は、ますます高まってきております。消防署といつしましても、矢部團長が掲げる「すべては地域のために」というコンセプトの下、消防団の皆様とともに西区の安全・安心のために一致協力してまいり所存でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これまで多くの消防署で勤務し、様々な消防団と連携して活動をしてきましたが、西消防団を知って、女性消防団員の皆さんのが活動されています。女性消防団員の並大抵ならぬ努力はもちろんですが、女性が入団し活動しやすい環境をつくられたのは、擁護するだけではありませんが、男性団員のおかげでもあるとも思います。



女性消防団員のパワーに  
圧倒されました

西消防署副署長 小笠原敏

消防署と消防団は  
顔の見える関係を  
これからも  
築きます！



消防署としましても、消防団と引き続き連携を深めていかなければと思います。女性団員の並大抵ならぬ努力はもちろんですが、女性が入団し活動しやすい環境をつくられたのは、擁護するだけでではありませんが、男性団員のおかげであります。

消防署としましても、消防団と引き続き連携を深めていかなければと思います。女性団員の並大抵ならぬ努力はもちろんですが、女性が入団し活動しやすい環境をつくられたのは、擁護するだけでではありませんが、男性団員のおかげであります。

# 西輪の輪

この西区の安全・安心をともに守る西消防署よりコメントを頂きました！

# 西輪の輪

すべては地域のために

西消防署長 中嶋俊明



平成27年4月1日付で西消防署長に着任いたしました中嶋でございます。西消防団の皆様には、日頃から地域防災力の向上にご尽力いただき感謝申し上げますとともに、本当に心強く思っております。

さて、東日本大震災が発生してから4年9か月余が過ぎましたが、被害が甚大であったがゆえに復旧・復興がなかなか進みません。そのような中においても南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、この地震が起ると東日本から西日本の広範囲にかけて被害

だけは入っていない。入るはずがない」などと、都合よく考えてしまいがちですが、「地震が起きたとき何処にいたか」によって自身の命運が左右されてしまふことは否めません。

大震等の危機は私たちの都合とは関係なく、いや恵なしに必ずやってきます。そして、大きな被害が発生することは避けられませんし、高齢の方や身体の不自由な方の援護を最優先に考えていかなくてはなりません。

女性消防団員のパワーに  
圧倒されました

西消防署副署長 小笠原敏

消防署と消防団は  
顔の見える関係を  
これからも  
築きます！



消防署としましても、消防団と引き続き連携を深めていかなければと思います。女性団員の並大抵ならぬ努力はもちろんですが、女性が入団し活動しやすい環境をつくられたのは、擁護するだけでではありませんが、男性団員のおかげであります。

消防署としましても、消防団と引き続き連携を深めていかなければと思います。女性団員の並大抵ならぬ努力はもちろんですが、女性が入団し活動しやすい環境をつくられたのは、擁護するだけでではありませんが、男性団員のおかげであります。



現在、団員の三割が女性消防団員です。男性消防団員は、地元から離れた会社等へ勤める方が多くなりました



そこで女性消防団員の基礎訓練を、12月13日より4回工程で実施することとしました。日中地域にいる事が多いため女性団員もより現場活動が出来る様、礼式から資機材取扱に熟知し、消防活動が出来る女性団員に成って貰いたいと考えています。

いかがでしたか？  
西消防団の1本部3分団230人は、年間を通じ大小のさまざまな訓練や講習、点検をおこない、また、火災や自然災害などが起きた際には出場して、地域防災・減災のために日々頑張っています。防災指導や応急手当普及啓発などの活動にも積極的に取り組んでいますので、機会がありましたら是非ご参加ください。

此からも団員の要望やアイデアを取り入れながら、地域に合った内容の訓練を続けて行きたいと思います



西消防団でもこの充実強化費により、各種資機材の新たな配置や整備がおこなわれましたので、執行内容や今後について、西消防団本部庶務部で会計を担当する大澤本部部長から説明いたします。

平成7年の阪神・淡路大震災や、平成23年の東日本大震災、そして局地的な豪雨、豪雪や台風等による災害が各地で頻発し甚大な被害を生じていることや、首都直下地震等の発生が予測されていることから、平成25年12月、「消防団を中心とした地域防災力の充実強化に関する法律」(以降「消防団を中心とした地域防災力の充実強化に関する法律」と省略)が制定、施行されました。

この法律は、消防団を中心として地域防災力の充実強化を図り、住民の生命、身体及び財産の災害からの保護を目的とするのですが、これを受けて横浜市でも自助・共助の取組の推進や、減災目標の達成に向け、地域特性に応じた円滑な消防団活動が行える体制づくりを推進するための、「消防団活動充実強化費」(以降「充実強化費」と省略)が創設されました。



西区の立地事情を見ても、大雨や津波襲来時には各河川の氾濫が予想される海拔の低い地域や、がけ崩れ警戒地域や道路狭隘地区など様々な危険地域が複数存在しており、そこに幹線道路を擁する横浜駅をも抱える等の条件の中、いざ大型災害が起きた際には予想外の問題も発生すると考えられます。

そこで西消防団ではまず前期に、水利の不便な場所での消火活動に有効な「組立式防火水槽」を団本部が導入、

(※次ページに続く)



特に西区は土地の起伏が多く、また住宅が密集し道路が細く入り組んだ地域も多いため、昨年より開始した境之谷消防出張所消防隊員との連携訓練などは私達が管轄する住宅地域でおこなう非常に貴重な訓練となっています。



境之谷消防隊との連携訓練。階段や狭い道路、急坂にホースを延長していく。



ただ、この様な実戦的な訓練では可搬式小型ポンプの音やホースの延長などにより近隣の方々には多少なりともご不便をお掛けする事もあるかと存じ

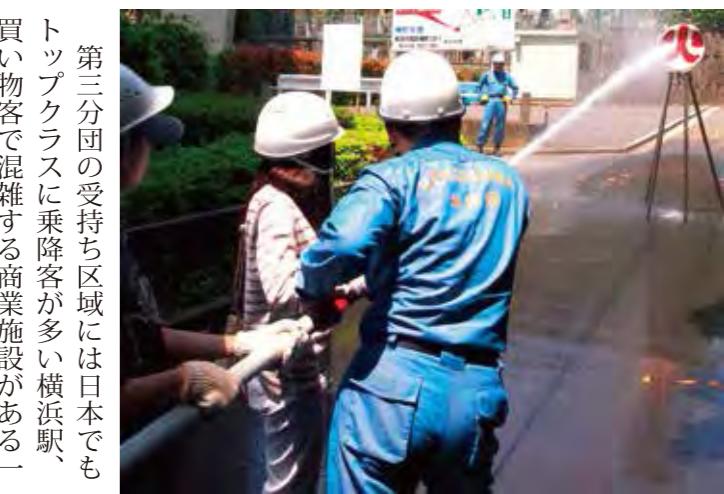


今年10月に訓練指導者を命じられました。第三分団は災害出場や各種訓練、応急手当・防災指導等に積極的に多くの団員が参加しています。



### 第三分団

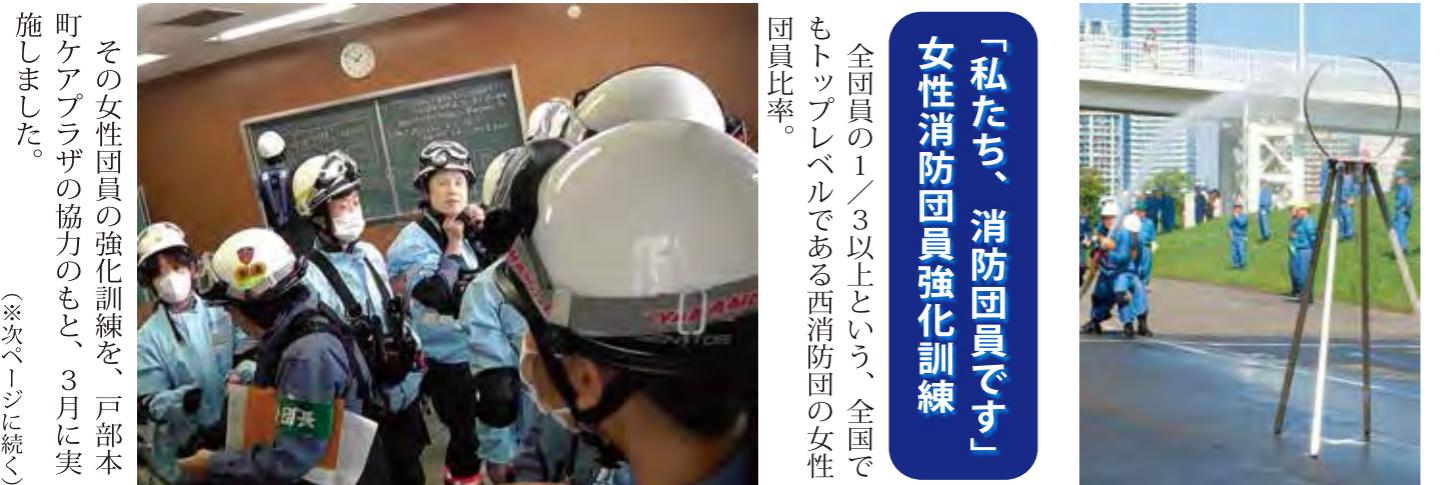
第三分団の受持ち区域には日本でもトップクラスに乗降客が多い横浜駅、買い物客で混雑する商業施設がある一方、木造住宅が密集し高低差のある地域や河川・海等もあるため、さまざまな都市型災害対応の訓練を計画・実施しています。



本部部長  
大澤秀一

ますが、安全には十分配慮して訓練を実施致しますので、地域の安心のためにも住民の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

(※前ページより続き)  
不十分であると考えています。そこで現在第二分団では、実際の第二分団管内の住宅地域での消火及び救助救出活動を想定した訓練の充実を図つていきます。



その女性団員の強化訓練を、戸部本町ケアプラザの協力のもと、3月に実施しました。

(※次ページに続く)

(※前ページより続き)  
また、各分団もその受持ち地域に合わせ、急傾斜狭隘道路での大災害時に機動力となる「電動アシスト自転車」を導入したり、風水害や高所活動時の自己確保に欠かせない「安全環つきカラビナ」や災害現場の照明活動にも使用する「発電機」を増強するなどしました。



大久保智子西区長をはじめ、沢山のご来賓の方々の列席をたまわり開会式が始まり、優勝カップが前回優勝の三分団から天部団長へと返還されます。

選手たちは朝から準備に余念がなく、応援する仲間の団員たちの表情にもどこか緊張感が滲み出ていました。

## 平成27年度西消防団 消防操法技術訓練会

（※前ページより続き）  
この訓練は、南関東にマグニチュード7の地震があつた想定で、施設関係者と女性消防団員が連携して、高齢者の建物内の安全な場所への避難誘導を実施し、傷病者に対しても適切な応急処置を施すというものでした。

西消防署の消防団担当に一人のニューフェイスが着任！  
さっそく西消防団だよりにコメントをいただきました！

いつもニコニコ顔の印象、石井さん

西消防署より西消防署境之谷保土ヶ谷消防署に異動となり、3年間勤務した後、4月1日に庶務課消防団担当に着任しました。今までの仕事は、消防隊と予防課勤務が多く、消防団事務は初めての経験になりますので、ご指導よろしくお願ひします。

西消防団は、都市型消防団として分つてきましたが、着任し実際に消防団の方と一緒に仕事を進める、自ら進んで活動していることに驚き「都市型消防団」と言われることは、知識となる活動には驚かされました。

これからもますます「自ら進んで活動する西消防団」が、地元区民に愛される組織であるように願っています。

（石井 達男）



\*\*\*\*\*



ウワサのイクメンパパ、田中さん

### 地域イベント参加で活動紹介と団員募集！

10～11月は地域イベントに参加の機会が多く、こども防火衣試着やバルーンアート配布をしながら消防団の活動紹介と団員募集をおこないました。

10月に西スポーツセンターで開催された「スポーツ・レクリエーションフェスティバル2015」では消防団ブースに心肺蘇生法とAEDのコーナーを併設し、沢山の方に体験をしていただきました。

同月の「第13回戸部本町地域ケアプラザまつり」では、バルーンアート配布やこども防火衣試着コーナーのほか、横浜市消防局キャラクター「ハマくん」が登場、消防団のPRに一役買つっていました。

11月の「第40回西区民まつり」では、恒例のヨーヨー釣りが大人気！

※イベント参加の際に、消防団活動の画像をパネルにして展示しています。ご質問等ございましたら、お気軽に団員へお声掛けください。



窓の外を確認し、無線で交信する。  
このような資機材の取扱いの習熟も必要。

西区の土地柄、大きな震災の際には懸念される津波の警戒をしつつ、周囲や建物内の情報収集をおこない、団本部の統率のもとに活動を各所で展開していくきます。



震災対策訓練が終了した後は、戸部本町ケアプラザ職員の方々から、車いすの取扱いや介助の注意点についてのレクチャーを受け、非常に有意義な一日となりました。



横浜市では消防団員が消防吏員とともに応急手当指導員の資格を取得することができます。

西消防団では、災害現場での応急手当活動と、地域への応急手当普及啓発の両方により高い成果をもたらすことを目指し上級救命講習を年に3～4回開催しています。

**めざせ、応急手当指導員100パーセント！**



横浜市消防団では、災害現場での応急手当活動と、地域への応急手当普及啓発の両方により高い成果をもたらすことを目指し上級救命講習を年に3～4回開催しています。



貴重な機会、団員からは次々と質問が飛び出で



指導の際にどんなツールを使うかも研究

心肺蘇生法やAEDの取扱い、三角巾法などの各種応急手当法を身に着け、再履修や講習指導の補助をすることにより、市民への指導方法についてもお互い切磋琢磨をしていきます。

## 防災指導や救命講習で 地域防災力をアップ！

この一年を通じ、西消防団は区内の町内会・自治会や学校などへの防災指導や、応急手当啓発活動を多数実施していました。



スタンドパイプ式は消火栓への接続が簡易



最も身近な初期消火器具である住宅用消火器の取扱い方法や注意点を説明、訓練用水消火器で「火事だ！」と声を出ししながらの消火を体験して頂いたり、



このような市民向けの訓練や講習指導を、全分団合計で年間150件以上行い、地域の自助・共助の力の向上への貢献を実感できた一年となりました。



また、団員の6割以上が応急手当指導員資格を取得している消防団として、町内会・自治会、イベント等での心肺蘇生法やAEDの啓発、中学校での救命講習指導にも積極的にあたりました。

消火栓に接続でき、木造住宅密集地域及び道路狭隘地域の共助による減災に有効なスタンドパイプ式初期消火器具の取扱い説明や、準備から放水までの訓練指導なども行いました。

今年は、火山噴火活動や爆弾低気圧による突風、記録的な豪雨など、今まで以上に様々な自然災害を意識させられる一年でした。記事にもあるように「消防団中核法」が施行され、私たち西消防団も地域防災・減災の要であると尚一層の努力をしています。この「西消防団だより」を通じて、私たちの活動を知つていただければ何よりです。そして、消防団活動に興味をお持ちいただけたら、是非入団を！  
『来年の表紙はあなたかもしない！？』

(西消防団広報委員会)

## ここにあります、あなたの手から始まる地域防災



# 西消防団☆団員募集！

満18歳以上で横浜市西区内に居住、または勤務・在学している方なら男性でも女性でも入団できます。

お問い合わせは 西消防署庶務課 入団促進アドバイザー 電話 045(313)0119

